

令和6年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

							石川県立金沢北陵高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	分析(成果と課題)	判定基準	備考
1 本校のスローガンである「時を守り、場を清め、礼を正す」を全生徒が意識し、自ら実践できるようにねばり強く働きかける。	① 時間厳守の指導を徹底し、遅刻・欠席者数の減少と皆出席を奨励する。また、日々の学校生活を中心に登校指導や集会などを活用して挨拶のさらなる励行を推進する。	生徒指導 学年 各教科	令和5年度の遅刻数は、全体で約600であった。震災による臨時休業もあって、令和4年度より減少したが、引き続き保護者と連携し、「時を守る」ことを徹底していく。挨拶については教職員から行うと返してくれる生徒が多い。	【成果指標】 (生徒) 各学年の遅刻数を減らすことにより全体の遅刻数の減少を図る。	学年ごとに集計を行い、3学年トータルの遅刻数が A 400未満であった B 500未満であった C 600未満であった D 600以上であった	前期の結果はのべ239名であった。内訳は1年26、2年152、3年61である。現時点ではA判定となる。昨年度と比較すると641名(265、164、212)であり大幅減である。今後冬季を迎え体調不良者が増加する後期に向けて継続的な指導が必要である。	Dの場合、次年度の取り組みを再検討	毎学期調査
			【努力指標】 (生徒)(保護者)(教員) 生徒自ら進んで挨拶ができる。	自ら進んでの挨拶が A よくできている B だいたいできている C あまりできていない D ほとんどできていない	A+Bの合計が生徒93.7%、保護者91.3%、教員74.3%と、昨年度に比べ増加傾向にある。しかしながら、生徒や保護者の意識と教職員の意識にまだ若干の隔りがある。今後も教職員も含め挨拶の励行に取り組みたい。	A+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査	
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規律・マナーのさらなる向上を目指す。	生徒指導 学年	令和5年度は生徒の96%、保護者の88%が遵守できていると回答があったが、教職員の回答は47.5%と大きな隔りがある。	【満足度指標】 (生徒)(保護者)(教員) 様々な機会を捉え、服装・頭髪に関して注意を促し、自発的な規律・マナーの遵守に努める。	北陵生は頭髪・服装容儀やマナーなどについて A よく守っている B だいたい守っている C あまり守っていない D ほとんど守っていない	A+Bの合計が生徒96.4%、保護者88.7%、教員37.1%と、生徒や保護者の意識と教職員の意識に依然として大きな隔りがある。特に教職員の割合の低下が著しいことから、就職等の進路を見据えて学年団と生徒指導課、さらに進路指導課との連携のもと、教職員の共通理解を図り、保護者にも理解を求めながら粘り強く指導にあたりたい。	A+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
			生徒理解に努めるとともに、個に応じたきめ細かな指導を行っている。	【努力指標】(教員) 生徒理解を心がけ、生徒の不注意な行動の未然防止のための早期指導に努めている。	生徒理解に心がけ、不注意な行動の未然防止に努めている。 A よくできている B だいたいできている C 十分できていない D ほとんどできていない	A+Bの合計が94.3%という結果でA判定となった。教職員は、あらゆる場面において生徒の様子をよく観察し、生徒の変化をしっかりと把握している。また教員間で情報共有を図っている。今後とも教職員間の連携をいっそう強化して生徒理解に努めたい。	A+Bの合計が95%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	③ 生徒を注意深く見守り、面接や保護者との連絡をより密にし、生徒理解を深める。	生徒指導 学年	いじめアンケートや面接を通して、生徒の状況をしっかりと把握し、相談や支援を行っている。	【努力目標】(教員) いじめ等の早期発見、早期対応に努め、教員間での情報共有がなされている。	いじめ等の早期発見、早期対応に努め、教員間での情報共有がなされている。 A よくできている B だいたいできている C 十分できていない D ほとんどできていない	A+Bの合計が91.4%という結果でA判定となった。いじめに関し、情報交換会、学年会などを通じてこれまで以上に情報共有を行い、いじめや問題行動の防止に努め、予兆等問題点がないかどうか目を配るとともに、保護者との連絡・連携をより密にしていこう。	A+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
			保健相談 学年					
2 研修等を積極的に受講し、教員としての資質向上を図ることにより、ICTを活用した授業改善を進めるとともに、生徒の学習意欲の向上を目指した取組	① 教科指導のみならず生徒指導や特別支援などの研修を積極的に受講し、教員としての資質向上に努める。	教務 各教科	校外内の研修等に参加している教員は多く、資質向上につながるよう努めている。	【努力目標】(教員) 研修等を積極的に受講し、教員としての資質向上を図る。	教員の資質向上につながるよう研修等に A 積極的に取り組んだ B ある程度満足できる取り組みができた C 積極的に取り組みはできなかった D ほとんど取り組めなかった	今年度4月～8月までの間に、県教員研修センター主催等の研修に参加した教員は、のべ80名である。さらに校内研修として今年も若手教員研修やICT機器を利用した授業におけるプチ研修会等も開催されている。今後も教員の研修情報を共有できるようにし、受講ししやすい環境を設けていく。	A+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
			② ICTを活用した研究授業や公開授業を積極的に行い授業の改善に努める。	教務 各教科	ICT機器を使用する教員は多く、さらに効果的な活用の工夫が求められている。	【努力目標】(教員) ICT機器の効果的な活用や工夫に努め、研究・公開授業・授業参観などを実施する。	ICT機器の効果的な活用を努めている教員の割合が A 80%以上である B 70%以上～80%未満である C 60%以上～70%未満である D 60%未満である	A+Bの合計が80.0%で、昨年度同期の84.9%から4.9ポイント減少したがA判定となっている。ICT機器が導入され様々な活用法が模索されてきたが、今後も一人一台端末などを積極的に取り入れた効果的な授業作りを続けていく必要がある。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	分析（成果と課題）	判定基準	備考
	③ わかる授業を行うとともに、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫・改善に努める。	教務 各教科	生徒の発言や活動を促す授業展開を図るよう、授業の工夫が必要である。	【努力指標】（教員） 互見授業を実施し、生徒が意欲的に学習に取り組めるよう授業改善に努める。	生徒の発言や活動を増やす授業の工夫に A 積極的に取り組んだ B ある程度満足できる取り組みができた C 積極的に取り組みはできなかった D ほとんど取り組めなかった	A+Bの合計が85.7%、昨年度中間より(81.9%)より3.8ポイント増加している。ただ依然として判定基準を下回っていることから、後期の授業において生徒の発言や活動を増やすためのさらなる工夫が必要である。	A+Bの合計が90%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	④ 家庭での学習習慣の定着を図る。	教務 進路指導 学年 各教科	考查試験前は勉強に励むが、日常の学習時間は減少している。今後も適切な学習課題を与え、習慣化させる必要がある。	【成果指標】（生徒） 自主的な学習を継続的に取り組むことができた。	家庭での平均学習時間が A 90分以上である B 70分以上～90分未満である C 55分以上～70分未満である D 55分未満である	第2回調査結果はA+Bの合計、平日66.1%、休日81.3%、試験前77.6%となっており、判定基準は超えている。しかしながら、これまで課題であった平日における家庭学習については少ない傾向が見られる。全体的に昨年度同期よりは増加傾向にあるので、今後もICT等を利用した課題を提供するなどして、家庭学習の定着に努める。	A+Bの合計が50%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	年7回調査
3 自分を知り、社会を知り、将来の自分を考えることのできる生徒の育成に向け、キャリア教育の一層の推進を図る。	① 各学年に応じた進路学習を工夫し、主体的で継続的な学びができるように支援する。	進路指導 教務 学年	多様な進路希望に対応するために組織的な指導体制と生徒一人ひとりに対するガイダンス機能の充実が求められる。	【努力指標】（教員） 生徒が自らの適性を理解し、進路目標をより明確に定めることができるよう、少しでも多くの個人面談を行う。	担任と生徒との1年間の個人面談回数が A 6回以上 B 5回以上 C 4回以上 D 4回未満	1学期中、各学年ともに個人面談回数は概ね3回行われている。今後も十分な個人面談の機会を設けることができるよう学年団等が中心となり後期の計画を立てるとともに、生徒理解と進路目標をより明確に定めることができるよう面談を継続して行う。	C、Dの場合、 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
				【満足度指標】（生徒） 進路指導の行事や「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」を通じて、進路について意識し考えることができた。	進路指導の行事や「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」の学習が進路を考える上で A 大いに役立った B ある程度役立った C あまり役立たなかった D まったく役立たなかった	A+Bが94.6%であり、昨年度より1.5ポイント増加し、過去5年間で最も高い数値となった。1年次生が履修する「産業社会と人間」は総合学科における特に重要な科目であり、十分な成果をあげている。2・3年次生も「総合的な探究の時間」におけるインターンシップやテーマ研究などを通して自らの進路志望への一助にしている。	A+Bの合計が85%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
				【成果指標】（生徒） 進学志望の生徒が第一志望校に合格することをより重視する。就職については、早期に内定率100%となるよう指導する。	四年制大志望者のうち第1志望校に合格した生徒が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満 学校推薦による就職希望者について、 A 10月末で100%内定を達成 B 11月末で100%内定を達成 C 12月末で100%内定を達成 D 12月末で100%内定に達していない		C、Dの場合、 次年度の取り組みを再検討	年度末に集計
	② 各種資格・検定試験に挑戦する意欲を喚起するとともに、補習体制などの環境整備に取り組むことで受験者数と合格者数の増加を目指す。	各教科 学年 進路指導	昨年度、各種資格・検定試験を取得・合格した生徒は令和6年能登半島地震の影響もあり、延べ397人と大幅な減少となった。	【成果指標】（生徒） 各種資格・検定試験に多くの生徒が挑戦し、取得・合格数を増やす。	新たに資格・検定を取得・合格した生徒の延べ人数が A 600人以上であった B 550人以上～600人未満であった C 500人以上～550人未満であった D 500人未満であった		C、Dの場合、 次年度の取り組みを再検討	年度末に集計
	③ 保護者や関係機関と連携を深め、進路指導の充実を図る。	進路指導 学年	提供された情報に対して満足している保護者は多い。さらに、進路に関する情報を、適切に発信していく必要がある。	【満足度指標】（保護者） 進路について、必要な情報が提供されている。	提供された情報に対して A 満足できた B ある程度満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった	A+Bの合計は92.6%で、前年度と同程度である。今後も各学年だよりやホームページなどを通して、その時期に応じた進路に関する最新の情報を工夫して迅速に提供する。また、引き続き保護者との連絡を密にし、生徒の進路実現を目指したい。	A+Bの合計が90%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	分析（成果と課題）	判定基準	備考
4 学校の活性化のため、部活動や地域ボランティアの活性化を図るとともに、学校の魅力を発信する取組を充実させる。	① 部活動の活性化を目指し支援・運営する。	特活 全職員	令和5年度の部活動加入率は77%、部活動により満足感や達成感を持っている生徒は76%であった。生徒が部活動に対し、より主体的に取り組めるような指導上の工夫が求められる。	【成果指標】（生徒） 部活動への加入率を高め、充実した高校生活になるよう支援する。	部活動への加入率が A 90%以上である B 85%以上～90%未満である C 80%以上～85%未満である D 80%未満である	前期の結果は81.7%（496人中405人が加入、重複あり）で前年度同期2.8ポイント増加したが基準を下回っている。新入生の加入率は79.6%、2年次77.3%、3年次86.6%と今年度は1・2年次生での無所属の割合が多い。部活動を続けることの大切さや、加入することのメリットを改めて伝	85%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	5月、10月に調査
			【満足度指標】（生徒） 生徒が部活動に主体的に取り組み切磋琢磨することを通して、豊かな人間関係を築き、達成感を得る。	部活動に対し満足感・達成感を感じている生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上～80%未満である C 60%以上～70%未満である D 60%未満である	前期の結果では、部活動の満足度や達成感を感じている生徒は77.3%となり、前年度同期よりも2ポイント増加した。加入者における満足度を無所属の生徒により伝わるよう、部活動の魅力をさらに発信し、加入率を高めていく。	70%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査	
	② 地域行事・学校行事等に参加し、地域との連携を密にする。	特活	令和5年度はボランティア活動等に参加した生徒数は増加した。今年度も時期を見定め活動を継続する。	【成果指標】（生徒） 地域の清掃活動や行事、ボランティア等に参加する。（「北陵アバンテ」を含める）	休日も含めて年1回以上参加した生徒が A 400人以上であった B 300人以上～400人未満であった C 200人以上～300人未満であった D 200人未満であった	前期の結果は25.2%の生徒が何らかのボランティア活動に参加と回答した。人数比では121人となる。半数以上が地域ボランティア（東原町のベ62名）への参加であった。後期には「北陵アバンテ」「金沢マラソン」等、学校全体として参加できるボランティア活動を実施する予定である。	C、Dの場合、 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	③ 信頼される学校づくりに努める。	総務 学年 生徒指導 保健相談	令和5年度「満足している」保護者は89%であった。より多くの方々に理解を頂けるよう、家庭と学校が一体となった学校づくりに努めていく。	【満足度指標】（保護者） 保護者が本校の教育活動全般を理解し、満足している。	本校の教育活動を理解し満足している保護者が A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満	前期の結果は91.3%でとなり、過去5年で初めてA判定となった。保護者における本校への注目度と満足度は高いことが伺える。今後もさらに本校の教育活動を理解してもらうための様々な取り組みを実施し、高い満足度を得られるよう努力する。	C、Dの場合、 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
総務 学年 生徒指導 保健相談			ホームページを随時、更新しており、本校の魅力を外部に積極的に発信することに努めている。	【成果指標】（教員） 本校の特色や生徒の活動が、ホームページなどで積極的に発信されている。	発信しているとする教員の割合が A 95%以上 B 85%以上95%未満 C 75%以上85%未満 D 75%未満	前期の結果は97.2%でA判定となった。H30年度以降96%以上の数値を維持している。教員全体に情報発信の効果と意義が浸透している現れており、今後も積極的に学校生活の様子や部活動などの情報を発信していく。	C、Dの場合、 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
5 働き方改革における教員の意識改革と行動改革を進めるとともに、業務のスクラップ&ビルドと平準化に取り組む。	① 月間や週間目標を設定し、それぞれが計画的に業務を進める。	全職員	令和5年度の時間外勤務は減少したが、引き続き時間外勤務の縮減、業務のスクラップ&ビルドと平準化を進める必要がある。	【成果指標】（教員） 勤務時間調査における月別の時間外平均が、前年度同月を下回っている。	時間外平均が、前年度同期より、 A 前年度より減少している B 前年度と同等または増加している	今年度4～7月の時間外月平均は2275.6分であった。昨年度の同期間の時間外平均が2453.2分であり、177.6分減少している。今後もこれまで以上に効率的な業務遂行について各職員が意識するとともに、スクラップ&ビルドを含めたさらなる業務改善を進めていく。	Bの場合、 次年度の取り組みを再検討	毎月調査